おもろ雑学

二井田地区 名字ベスト10

二井田地区には、八十八種類の名字があります。そこで、この地区の名字ベスト10はどうなっているでしょうか。また町内別のベスト1は。

〈全地区〉

1位 小畑（七十二戸）
2位 芳賀（四十一戸）
三位 伊藤（三十六戸）
四位 安達（三十三戸）
五位 仲沢（三十二戸）
六位 武田（二十八戸）
七位 一関（二十七戸）
八位 小林（二十三戸）
八位 斎藤（二十三戸）
十位 因幡（二十一戸）

〈地区別〉

下村 仲谷（九戸）
町 仲沢・一関（各五戸）
館 松田・小林（各七戸）
小坪川原 仲沢（十九戸）
高村 伊藤（二十五戸）
中台 伊藤（六戸）
四羽出 小畑（五十六戸）
三浦 小畑（八戸）
下川原 秦（九戸）
本宮 富樫（十七戸）
比内前田 芳賀（三十五戸）
杉沢 武田（二十戸）
大子内 斎藤（二十戸）

※五十四年十月一日 二井田公民館調べ

屋号いろいろ

二井田地区では、むかしから各家々の呼び方を通称で呼びあっています。そこで、いくつかの通称を紹介します。

「もっちゃ」「タンスや」「はちどうき」「かどの家」「元神官の家」「カッチャ」「長屋」「にごべえ」「アメ屋」「ブリキ屋」「ブンコ」「モリの家」など

江戸時代の思想家 安藤昌益と二井田

▲墓は温泉寺にありました石碑は220年ぶりに再建されました

安藤昌益は、江戸時代中期に、封建制社会の生んだ様々の矛盾を指摘、否定し、すべての人間が自然に即応して生きるべきであり、直耕することによって不耕貧食の徒をなくし、生産と収穫を平等とする世を創造すべきであるという、それまでの世界に類のない哲学思想を創見した人物です。

昌益は一七五八年ごろ八戸から当市二井田に移り住み、没するまでの間、村の主だった人々の大半を門弟として、その思想の普及と実践にあたっていたことが記録に残されています。

われらサークル仲間

本宮子供会

私たちの子供会が結成されて十周年にあたる昭和六十年に、会館前と私たちの家に桜の木を記念植樹しました。木が小さいため今年はまだ咲きませんが、二、三年後には花が咲きそろい、町内の祭典に色をそえることでしょう。

子供会の行事としては、ラジオ体操と約五百㍍のジョギング、町内一斉クリーンアップ作戦、キャンプの集い、入学・進級おめでとう会などを行っています。行事の計画は、私たちの手で作っていますが、ときにはお父さんたちの手も借ります。

最後に、皆さんへのお願いですが、老人クラブのおじいちゃんたちとクリーンアップをしていますが、老人クラブぼに空カンが多く捨てられて、お父さんたちが農作業をするときに大変困っています。空カンの投げ捨てはやめるようにしてください。

（会長 富沢広幸）

二井田 ミニガイド

忠犬ハチ公 生誕の地

東京都の渋谷駅前に忠犬ハチ公の銅像があります。このハチ公は、大正十二年大子内の斎藤義一さん宅で生まれたものです。

贄柵

一一五八年ごろ河田次郎が本拠地としたという贄柵の位置は、現在不明ですが、一説には二井田ではないかといわれています。江戸時代の諸資料には二井田村とは犀川を隔てた東岸に、藤原泰衡を祀る錦神社があり、二井田村の西南二・五キロ㍍には、泰衡の妻を祀る五輪台西木神社があります。また、二井田地区には贄の里・館・高村などが残っており、この説の根拠となっています。

大館工業団地

工業団地周辺は田園地帯で緑豊かな環境に囲まれており、大館市街地に近いことから労働力の確保には好適地となっています。

工業団地は二十六・三haあり、現在五社が誘致されています。この五社には、約六百人の人たちが働いています。また、当市では二五・五haの造成を計画、企業を誘致し住民の雇用の場を確保するため努力しています。

〈その他の施設〉

・二井田野球場・運動場
・達子森スキー場

人物登場

田中三郎さん（高村・79歳）

田中さんは、八年ほど前から二井田地区の子供たちに「わら工品」や「陶芸」を指導しています。

子供たちからは「じいさん先生」と呼ばれていますが、田中さんは「私は、何でも作るのが好きなので、先生という立場ではなく子供たちといっしょに学んでいるだけです」と話していました。

「子供たちは真剣にやっているのでできあがりは大変よい作品ばかりです」と目を細めていました。また「子供たちが、自分で作品を作るということで何かをみつけてくれたらそれでうれしい。私もまだこれからいっぱい覚えたいことがあります」とも話していました。